



横浜美術館開館30周年記念  
30th anniversary of the Yokohama Museum of Art

—アートと人と、

meet the collection 美術館



2019. 4. 13 sat  
- 6. 23 sun

開館時間：10:00-18:00（毎週金・土は20:00まで開館）  
休館日：木曜日（ただし5月2日は開館）、5月7日（火）  
\*入館は閉館の30分前まで  
Open Hours: 10:00-18:00 (Open until 20:00 on Fridays and Saturdays)  
\*Admission until 30 minutes before closing.  
Closed on Thursdays (except May 2) and May 7 (Tue.)  
※毎週金・土の夜間開館については、平成31年度横浜市予算の議決後に決定します。

主催：横浜美術館、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）  
助成：一般財団法人地域創造  
協力：みなとみらい緑、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社

 **横浜美術館**  
Yokohama Museum of Art

【展示内容】（※工機展並み観覧）  
田中義子（1915-2017）1947年「エトワス、ルージュ」 © Kanajima Akira and Tanaka Akiyo Association  
長谷川裕子（1932-2017）「アリスの部屋、カマフラ」 © YOSHITOMI NAQA 2017  
7-11-「若くは（空想の風景）」1950年「アリス」 © Akiyo Tanaka  
The Work of Romulo Gallo Chica & Graham Williams  
本島洋子（1931-）「日本橋」1974年 複製、カマフラ  
「カマフラ（複製）」1971年 複製  
本島洋子のエッセイと展覧会の歴史を辿る（1）1935年頃「エトワスとルージュ」  
© PHILIP RAY 2015 TRUST / AUBREY PARIS & JASPER RAY 2019 © 2019

YOKOHAMA MUSEUM OF ART

横浜美術館開館30周年記念  
Meet the Collection —アートと人と、美術館

30th anniversary of the Yokohama Museum of Art  
Meet the Collection

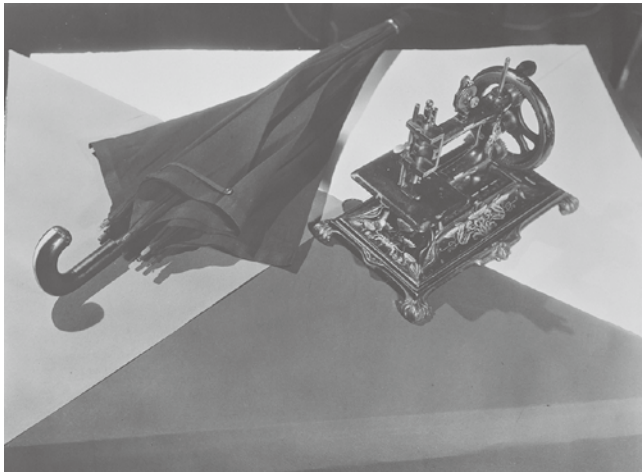
2019年4月13日（土）- 6月23日（日）

# PRESS RELEASE

2019年に開館30周年を迎える横浜美術館では、全展示室を使って当館のコレクションを紹介する展覧会「Meet the Collection -アートと人と、美術館」を開催します。

本展では、「LIFE:生命のいとなみ」「WORLD:世界のかたち」の2部構成、全7章のもと、当館の1万2千点を超えるバラエティ豊かなコレクションのなかから、絵画、彫刻、版画、写真、映像、工芸など300点を超える作品を展示します。また、4人のアーティスト[<sup>たばいも</sup>束芋、<sup>あさい ゆうすけ</sup>浅井裕介、<sup>いまづけい</sup>今津景、<sup>すがきし お</sup>菅木志雄]をゲストとして招き、彼らの作品を当館に収蔵された多様な作品と同じ空間に並べ、作品同士の出会いの場を創出します。

くしくも会期中に、平成というひとつの時代が幕を閉じます。平成元年に開館した当館は、文字通り平成の30年間と軌を一にして、作品の収集活動を基盤としながら、アートを通じた無数の出会いを生みだしてきました。個性溢れる作品たち、それを取りまくアーティストや来館者、それらを結びつけて豊かな関係を育む、磁場としての美術館一。横浜美術館にとっての大きな節目となる年に、コレクションとの出会い(=Meet the Collection)の場としての美術館の役割と可能性を見つめなおします。



マン・レイ《解剖台の上のミシンと蝙蝠傘の偶然の出会いのように美しい》1935年頃  
ゼラチン・シルバー・プリント 20.2×27.9cm  
横浜美術館蔵 ©MAN RAY 2015 TRUST / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2019 C2610



奈良美智《春少女》2012年  
アクリル絵具、カンヴァス 227.0×182.0cm  
横浜美術館蔵 ©YOSHITOMO NARA 2012

## 本展のみどころ

### 1. 横浜美術館のコレクションが全展示室で一堂に！

全展示室を使った大規模なスケールで、横浜美術館コレクションをまとめてご覧いただけます。当館を代表する名品をはじめ、幅広い時代、地域、分野にわたる所蔵品を、既存の美術史の文脈とは異なるテーマのもとで読み解いていく試みです。

### 2. ゲスト・アーティストによるコレクションの新しい見方の提案

4人のゲスト・アーティストのうち菅木志雄と束芋は、それぞれ当館の開館10周年、20周年の節目で個展を開催した作家。また、浅井裕介は当館の若手作家支援プログラム「New Artist Picks」草創期(2007年)の参加作家です。本展で初めて当館とかかわりをもつ新進作家・今津景を加え、彼らゲスト・アーティストの視点を展示構成に織り込むことで、当館のコレクションに別の角度から光をあてます。

### 3. 「出会いの場」としての美術館のあり方を展覧会が体現

学芸員とアーティストとの協働による展示構成、アーティストと市民が協働する作品制作・展示といったさまざまな仕掛けによって、「アートと人」、「人と人」とを無数の線をつなぎ、「出会いの場」としての美術館のありかたを提示します。

## 展覧会の構成

### 第I部 LIFE：生命のいとなみ

躍動する線であらわされる、命の鼓動。身振りや表情の描写に込められた、人の感情。「生命」や「人のいとなみ」が、美術においてどのように表現されてきたかを、4つのテーマから考えます。

#### I-① ころろをうつす [ゲスト・アーティスト] <sup>たばいも</sup> 東芋

日本の美術において古くから題材にされてきた、歌舞伎や浄瑠璃などの演劇や古典文学といった物語の主題は、近代に誕生した日本画、そして今日の美術にいたるまで脈々と受け継がれています。

本章では、幕末の錦絵や近代の日本画に描かれた演劇や古典文学の登場人物たちの「情念」を主題とした絵画を紹介します。そこにゲスト・アーティストとして、浮世絵の色彩や墨絵の伝統に触発されつつアニメーションをベースに立体的な映像インスタレーションを制作する現代の美術家・東芋の作品を接続。感情の機微や揺れうごきといった「人の心」を描いた作品が、時空を超えて出会います。

##### 出品作家 (予定)

今村紫紅、歌川(月岡)芳年、太田聴雨、小倉遊亀、鍋木清方、菊池契月、安田鞞彦、東芋 ほか

##### 東芋 (1975年兵庫県生まれ、長野県在住)

アニメーションを用いたマルチ・チャンネルの映像インスタレーションにより世界的に知られ、2011年のヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表になるなど、数々の国際展や国内外の美術館で精力的に作品発表をする傍ら、近年は舞台とのコラボレーションや新聞連載小説の挿絵なども展開する。横浜では、2001年の横浜トリエンナーレに最年少の25歳で参加したほか、2009年、横浜美術館開館20周年を記念して、全て新作による個展「東芋：断面の世代」を開催。本展は個展以来10年ぶりに横浜での作品発表となる。

#### I-② いのちの木 [ゲスト・アーティスト] <sup>あさ い ゆう すけ</sup> 浅井裕介

植物や動物などの生きものをモチーフとした絵画や彫刻はときに、それ自体がまるで命を宿したかのように生き生きと動きだし、広がっていくような感覚を観るものにあたえます。今日、そのような制作を体現するアーティストが、浅井裕介です。マスキングテープを建物の壁や床に貼りつけ、その上に描画していく「マスキングプラント」シリーズや、その土地で採取された土をつかって描く泥絵のシリーズなどで知られる浅井のサイトスペシフィックな創作が、ふたたび横浜美術館を舞台に展開されます。

当館のコレクションから作家とともに選んだ「自然」や「生命」をテーマとした作品群をイメージの起点として、浅井の描画がそれらの作品を包み込みながら空間全体に増殖していきます。

##### 出品作家 (予定)

マックス・エルンスト、ジョアン・ミロ、プラブハカル・ナイクサタム、ヴォルス、桂ゆき、長谷川潔、浅井裕介 ほか

##### 浅井裕介 (1981年東京都生まれ、東京都在住)

テープや泥等身近な素材を用い、ギャラリー空間のみならず、学校、道路といった公共空間をも変容させるような作品を制作する。近年の個展に「浅井裕介一絵の種 土の旅」(2015-2016年、箱根彫刻の森美術館)。また国内外のグループ展、芸術祭に多数参加している。横浜美術館では2007年に、「New Artist Picks」枠で個展「根っこのカクレンボ」を開催。グランドギャラリーやカフェ等館内全域をマスキングプラントで埋め尽くした。それから12年、国内外での多くの発表を経て経験を重ねてきた作家が再び横浜美術館という場と出会う。



鍋木清方《春宵怨》1951年  
絹本着色 126.0×71.0cm  
横浜美術館蔵



東芋《あいたいせいじょせい》2015年  
映像インスタレーション (5'33"ループ) 【展示風景】  
©Tabaimo / Courtesy of Gallery Koyanagi  
Photo by Kazuto Kakurai



プラブハカル・ナイクサタム《気まぐれなさざやき》1992年  
綿・羊毛、ゴブラン織り 250.0×310.0cm  
横浜美術館蔵



浅井裕介 (yamatane) (参考作品) 2014年  
Rice University Art Gallery, ヒューストン(アメリカ) 【展示風景】  
©Yusuke Asai / Courtesy of ANOMALY, Tokyo and Rice University Art Gallery  
Photo by Nash Baker

# PRESS RELEASE

## I-③ まなざしの交差

「目」という器官は、感情や意志をひときわダイレクトに伝えるものとして、人物表現の中でも重要なモチーフです。

本章では、古今東西の絵画、写真、彫刻にあらわされた「目」に着目します。モデルがこちらに向かって投げかける、あるいは逸らす視線、そのモデルの表情を凝視し、カンヴァスや写真に写し取る芸術家の眼、そのやりとりの結果として生み出された作品を観る、わたしたち鑑賞者の眼。いくつもの視線の交錯をはらんだアートをとおして、個々のまなざしが表すもの、そこに込められた意味を考えます。



マン・レイ《不滅のオブジェ》1923年(1965年再制作)  
メトロノーム、写真 21.5×11.1×11.5cm  
横浜美術館蔵 ©MAN RAY 2015 TRUST / ADAGP,  
Paris & JASPAR, Tokyo, 2019 C2610



ポール・セザンヌ《縞模様の服を着たセザンヌ夫人》  
1883-85年 油彩、カンヴァス 56.8×47.0cm  
横浜美術館蔵

### 出品作家(予定)

フランシス・ベーコン、ロバート・キャパ、  
ポール・セザンヌ、サルバドール・ダリ、  
ジム・ダイン、郭徳俊、マン・レイ、パブロ・ピカソ、  
アレクサンドル・ロトチェンコ、石川真生、  
伊藤深水、工藤哲巳、奈良美智 ほか

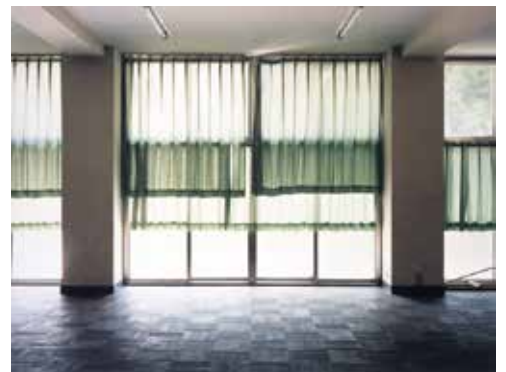
## I-④ あのとき、ここで

写真が普及した19世紀後半以降、天災や戦争、政治の変革といった歴史的な出来事は、報道写真を通して瞬時に世界中へ伝えられ、人々の中に共通の記憶を形づくってきました。美術家たちは一方で、そういった災禍のなかを生きる市井の人々や、時間の経過とともに忘れられていく記憶を、象徴的なイメージをとおしてわたしたちに伝えます。

本章では、歴史的瞬間とそこに立ち会った人々や、その動乱のなかでも変わらない日常を送る人々を捉えた作品、あるいはそういった事象が時間とともに変化するさまを見つめた作品をとおして、出来事と場所、時間の関係について考えます。

### 出品作家(予定)

ビル・ブランド、ロバート・キャパ、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、  
アルフレッド・アイゼンシュタット、ディヴィッド・シーモア、エドワード・スタイケン、  
土田ヒロミ、浜口カシ、米田知子 ほか



米田知子《教室I(遺体仮安置所をへて、震災資料室として使われていた)》  
2004年(2005年プリント) 発色現像方式印画 104.2×123.2cm  
横浜美術館蔵 ©YONEDA Tomoko



アンリ・カルティエ＝ブレッソン《マドリッド》1933年  
ゼラチン・シルバー・プリント 24.1×35.8cm  
横浜美術館蔵 ©Henri Cartier-Bresson / Magnum Photos

## 第II部 WORLD：世界のかたち

さまざまな素材やイメージを構築して紡ぎだされる美術作品は、芸術家それぞれの世界観の表徴であり、世界の構造についてのひとつの解釈でもあります。象徴化された「世界の縮図」としてのアートのありようを、3つの視点で紹介します。

### II-① イメージをつなぐ [ゲスト・アーティスト] <sup>いま づ けい</sup> 今津景

眼の前の光景をありのままに描くのではなく、さまざまなモチーフを繋ぎあわせてひとつのヴィジョンを形づくる手法は、古今東西の作品に見て取ることができます。

本章では、その「繋ぎあわせ」の手法を根幹においた絵画で注目をあつめる画家・今津景による幅5m近くにおよぶ大作を展示し、当館のコレクションの中核をなすシュルレアリスム絵画をはじめとする作品群を対峙させます。古典的な油彩画の技法に現代のテクノロジーを取り込み現実を超えた世界像を描き出す鋭敏の作家との出会いをとおして、美術史における「引用」「変容」「接続」といった主題と表現手法について再考します。

#### 出品作家 (予定)

ポール・デルヴォー、オスカル・ドミンゲス、マックス・エルンスト、ヴィフレド・ラム、マン・レイ、フェルナン・レジェ、イヴ・タンギー、福沢一郎、福田美蘭、横尾忠則、今津景 ほか

#### 今津景 (1980年山口県生まれ、東京都・バンドゥン [インドネシア] 在住)

2000年代後半から発表をはじめ、「VOCA展2009 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」で佳作賞を受賞して注目を集める。古今東西の美術史上の作品と身体や動植物などのイメージを収集してコンピューター上で繋ぎ合わせ、カンヴァスに描き起こすという手法で制作する。他のゲスト・アーティストと異なり、これまで当館の活動と接点のなかった今津が、当館学芸員と共同で展示立案に携わることにより、当館のコレクションに新しい視座を提示する。



ポール・デルヴォー《階段》1948年  
油彩、板 149.0×120.0cm  
横浜美術館蔵 ©Foundation Paul Delvaux,  
Sint-Idesbald - SABAM Belgium / JASPAR 2019  
C2600



今津景《Repatriation》2015年 油彩、カンヴァス 227.3×486.0cm  
作家蔵 ©Kei Imazu / Courtesy of ANOMALY, Tokyo  
Photo by Keizo Kioku

### II-② モノからはじめる [ゲスト・アーティスト] <sup>すが きし お</sup> 菅木志雄

今日、造形作品に用いられる素材は限りなく多様化しています。従来の「表現のための材料」という位置づけから脱し、それ自体がモチーフであり、その組み合わせが表現の根幹をなす作品も多くみられます。

本章では、1960年代末に「もの派」の作家として出発し、今日もなお第一線で活動する菅木志雄をゲスト・アーティストに招聘。1999年に当館で開催した個展において発表された大規模なインスタレーションが、20年ぶりに同じ場所に展示されます。さらに、美術史のなかに脈々と継承される「素材＝主題」としてのアートを当館のコレクションからピックアップし、素材同士の出会いの空間を創出します。

#### 出品作家 (予定)

ナウム・ガボ、アレクサンドル・ロトチェンコ、クルト・シュヴィッターズ、ウラジーミル・タトリン、フリードリヒ・フォルデンベルゲ=ギルデヴァルト、斎藤義重、菅木志雄 ほか

#### 菅木志雄 (1944年岩手県生まれ、静岡県在住)

1960年代末から発表をはじめ、関根伸夫や李禹煥らとならぶ「もの派」の代表的作家に位置づけられる。以後今日に至るまで旺盛な創作活動を展開、国際的な評価を確立している。1999年には横浜美術館で個展「菅木志雄・スタンス」を開催。今回はその際に発表された大規模なインスタレーション作品2点を再展示するとともに、当館のコレクションをもとにした展示構成に菅自身が携わる。



ナウム・ガボ《空間の構造》1959年  
ブロンズ、アルミニウム、プラスチック  
81.3×55.9×68.6cm  
横浜美術館蔵 The Work of Naum Gabo  
©Nina & Graham Williams



菅木志雄《環空立》1999年  
木 359.5×1,323.0×1,259.0cm  
横浜美術館蔵 ©Kishio Suga

# PRESS RELEASE

## II-③ ひろがる世界

モチーフが集積し、細胞のように複雑に絡みあって形づくられる抽象的イメージ。要素をそぎ落とし、極限まで単純化することで得られる、それ自体で完結しつつも「無限」を想起させるイメージ。あるいは窓外の風景のようにこの世界の断片を切り出し、フレームの外まで拡がっていくようなイメージ。いずれも、アーティストが独自の視点と解釈をつうじて象徴的に表現した、それぞれの「世界のすがた」といえるでしょう。

展覧会の末尾を飾る本章では、限られた大きさをもつ造形のなかに小宇宙的世界を紡ぎだした作品群を紹介します。収縮ー拡張、微視ー巨視、有限ー無限、といった対極の概念をはらむさまざまな世界の像が、ひとつの空間のなかで対面します。

### 出品作家 (予定)

ピーター・コフィン、サルバドール・ダリ、オスカル・ドミンゲス、マウリッツ・コルネリウス・エッシャー、岩崎貴宏、國領経郎、菅井汲、辰野登恵子、田中敦子 ほか



ヴァシリー・カンディンスキー《網の中の赤》1927年  
油彩、厚紙 61.0×49.0cm  
横浜美術館蔵



國領経郎《織》1982年  
油彩、カンヴァス 129.0×192.0cm  
横浜美術館蔵

## 関連イベント

下記のほかにもトーク、ワークショップなど多彩なイベントを予定しています。詳細は決まり次第展覧会ウェブサイトにてご案内します。

### 1. 束芋 アーティストトーク

日時：2019年5月18日(土) 14:00～15:30 (13:30開場)

講師：束芋(本展ゲスト・アーティスト)

会場：レクチャーホール(定員220名/先着順)

参加費：無料(事前申込不要)

### 2. 菅木志雄 上映&トーク

日時：2019年6月2日(日) 14:00～16:30 (13:30開場)

上映作品：『存在と殺人』(脚本・監督：菅木志雄/1998-99年/86分)

出演：菅木志雄(本展ゲスト・アーティスト)

会場：レクチャーホール(定員220名/先着順)

参加費：無料(事前申込不要)

### 3. 学芸員によるギャラリートーク

日時：2019年5月4日(土・祝)、6月1日(土) いずれも14:00～14:30

2019年5月17日(金)、6月21日(金) いずれも18:30～19:00

会場：企画展展示室 参加費無料(事前申込不要、当日有効の観覧券が必要)

## トピックス

### 浅井裕介と市民による共同制作「美術館を耕す」を実施！ 【市民のアトリエ、子どものアトリエ連携プログラム】

画家・浅井裕介と市民とによる共同制作を行います（要事前申込、有料）。横浜をはじめ各地の土を原料にした泥絵具を用いて、参加者全員で動植物のイメージを描きます。その絵は浅井によって再構築されたのち、当館グランドギャラリーに展示されます。本展のテーマである、「アートと人と美術館」の出会いを象徴する空間を創りあげます。  
開催日：2019年4月27日（土）、4月28日（日）（予定）



（参考）浅井裕介ワークショップ「テープ森をつくろう」制作風景  
（横浜市民ギャラリーあざみ野、2011年）

### 菅木志雄のインスタレーション作品をプレ展示！

横浜美術館1999年に開催された個展「菅木志雄展：スタンス」で発表された作品《散境端因》<sup>さんきょうは いん</sup>。米松の丸太とアルミニウムで構成される全長50メートル近い巨大なインスタレーション作品を、本展の開幕に先駆けて美術館の前庭に展示します。20年の間に、美術館の周辺的环境や景観も大きくかわった中、再び置かれるこの作品はどのような見え方をするでしょうか。  
展示期間：2019年3月9日（土）～（予定）

### みなさんとともに振り返る！30年の歩み

開館30周年の節目にあたり、会場内に横浜美術館の年表を掲出し、当館の活動の歩みを平成の時代背景とともに振り返ります。また、横浜美術館との出会いにまつわるメッセージをご来館のみなさまにお寄せいただき、会場内に掲出します。

### 6月2日（日）横浜開港記念日は観覧無料！

1859年6月2日に横浜は開港しました。この日を記念し、どなたでも無料で展覧会をご覧ください。

### コレクションに焦点をあてた展示で連携！

#### 東京都現代美術館「百年の編み手たち」展と相互割引実施

本展と東京都現代美術館は相互割引を実施します。リニューアル・オープン、開館30周年と、それぞれの節目を飾る、コレクションに焦点をあてた展覧会にて、両館の個性豊かな所蔵作品をお得にお楽しみいただけます。

【対象展覧会】「百年の編み手たち ー流動する日本の近現代美術ー」（3月29日〔金〕ー6月16日〔日〕）

【割引内容】 いずれか一方のチケット（半券・前売券含む）を他方の展覧会チケット販売所でご提示いただくと、「Meet the Collection」展の一般観覧当日券を100円割引、「百年の編み手たち」展の観覧料を1割引でご購入いただけます。1枚につき2名様、1回限り有効、その他の割引との併用は出来ません。

## YOKOHAMA MUSEUM OF ART 30TH ANNIVERSARY

### 横浜美術館開館30周年

1989年11月3日に開館した横浜美術館は、今年で開館30周年を迎えます。当館30年の歩みをみなさまと振り返り、祝うべく、3つの企画展に加え、シンポジウムの開催や記念誌の発行などを予定しています。30周年を記念して制作するお菓子など、グッズも販売します。詳細は追ってウェブサイトにて発表します。



撮影：笠木靖之



ルネ・マグリット 《王様の美術館》1966年  
油彩、カンヴァス 130.0×89.0cm  
横浜美術館蔵

## 横浜美術館開館30周年記念

## Meet the Collection —アートと人と、美術館

30th anniversary of the Yokohama Museum of Art

## Meet the Collection

会期 2019年4月13日(土) — 6月23日(日)

開館時間 10:00~18:00 (入館は17:30まで)

毎週金・土は20:00まで (入館は19:30まで)

※毎週金・土の夜間開館については、平成31年度横浜市予算の議決後に確定します。

休館日 木曜日(5月2日[木・休]は開館)、5月7日(火)

主催 横浜美術館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)

助成 一般財団法人地域創造

協力 みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社

## チケット

	当日	前売	団体
一般	1,100円	900円	1,000円
大学・高校生	700円	500円	600円
中学生	500円	300円	400円
小学生以下	無料	—	—
65歳以上 (要証明書、美術館券売所でのみ対応)	1,000円	—	—

## チケット取扱い

横浜美術館(前売りはミュージアムショップ)

セブンチケット(セブン・イレブン店内マルチコピー機もしくはウェブサイト)

イープラス(ファミリーマート店内Famiポートもしくはウェブサイト)

※電子チケット「スマチケ」もご利用いただけます。

※前売券販売期間: 2019年1月4日(金) — 4月12日(金)

※2019年6月2日(日)は観覧無料

※団体は有料20名以上(要事前予約)

※毎週土曜日は高校生以下無料(要生徒手帳、学生証)

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料

※その他の割引料金については別途お問い合わせください。

## 横浜美術館

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1

TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317

<https://yokohama.art.museum>

## プレスリリースお問合せ

横浜美術館 広報担当(水谷、藤井、一色、梅澤)

TEL: 045-221-0319 FAX: 045-221-0317

E-mail: [pr-yma@yaf.or.jp](mailto:pr-yma@yaf.or.jp)